

経営者による業績予想の精度と経営者能力

張 姣

目 次

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. はじめに | 4. 回帰分析の結果 |
| 2. 先行研究と仮説の導出 | 5. 結論及び残された課題 |
| 3. リサーチ・デザイン | |

本稿は、経営者能力が業績予想の精度に与える影響について検証を行う。この検証は、経営者が正確に業績を予想し、そして開示しようとしていることを前提にしている。検証結果によれば、経営者能力が高いほど、公表された業績予想が正確である。この検証結果は、日本企業の経営者による業績予想の精度と経営者能力の関係を明確にしており、新たな発見として先行研究に貢献すると考えられる。なお、本稿は本文と補論で構成されており、詳細を補論で述べている部分については本文中に注が付されている。

1. はじめに

日本の証券市場に上場している企業は、証券取引所の要請に応じて、決算短信において次期の売上高や利益についての業績予想を公表する。この経営者による業績予想を含む決算発表は、証券取引所や商法による制度開示とは異なり、法的拘束力のない自発的な開示である。しかし、実際にはほとんど全ての企業が経営者による次期の業績予想を公表している。つまり、日本では、経営者による業績予想の公表は事実上の強制開示となっている。また、多くの先行研究で経営者による業績

予想が企業価値と強い関連性を持っていることが明らかにされている (Darrough and Harris [1991]、太田 [2002])。これらの検証結果は、経営者自ら発信する業績予想が投資家の投資判断にとって最も重要な情報源の一つであることを示唆している。

しかし、経営者が公表する予想値は常に正確ではなく、経営者の見積もりの誤りや経営環境の急激な変化などの理由によって実績値と乖離することがある。そのため、経営者による業績予想が正しく企業の将来業績を予想できているのか、あるいはその精度やバイアスに影響を与える要因は何



張 姣 (ちょう きょう)

近畿大学経営学部非常勤講師 (17年9月より)。2015年3月 近畿大学大学院商学研究科博士前期課程修了、18年3月 近畿大学大学院商学研究科博士後期課程修了、博士 (商学) 取得。現在、経営者能力と業績予想の開示戦略との関連性について実証的な分析を行っている。